



# “さくらの会”便り

発行責任者
会 長 栗野勝彦
編集責任者
世話役代表 上原 栄
Tel.0773-22-7859

ーリラックスできて、はげまし合うところ、勇気を与えられるところー

## 福知山市長と懇談会



# 実情や思いを伝える

さくらの会は、京都府立中丹勤労者福祉会館にて平成29年2月24日午後3時～4時半まで、大橋一夫福知山市長他3名と懇談会を実施しました。さくらの会から10名が参加。田中明副会長の挨拶で開会、活動概要の説明の後懇談会に入りました。

会員からは、次のような実情や思いが出されました。

### 【実 情】

▼発症当時は、病名も分からず、診断書も書いてくれなかった。

▼当時は、市担当窓口も、病院も高次脳機能障害を理解してくれなかった。

▼介護者は、24時間対応で休む時間もなく、高次脳機能障害による暴力、暴言等で家庭は崩壊、地獄の日々であった。全面的に受け止めてくれるところがなく、どんどんひどくなった。

▼専門の先生は京都市にしかなく、福知山から毎週1回、2年間の通院は時間的にも、経済的にも大変であった。

▼病名が分からず、リハビリの対応が遅れ、症状の改善が遅れた。

### 【思 い】

▼京都府北部（福知山市等）に高次脳機能障害の拠点、コーディネーター、セラピストの配置をお願いしたい。

▼福知山市でも高次脳機能障害者が白い目で見られることの無いような環境になってほしい。

▼車椅子の生活でも、ごく自然に市民の人々が支援してくれるような環境にして欲しい。

▼高次脳機能障害者がショートステイに行けるような施設が欲しい。

▼当事者・家族の居場所が欲しい。家族がリフレッシュできる場が欲しい。

▼福知山市民病院でも、継続したリハビリを受け入れて欲しい。

## 市長からは



大橋一夫市長からは

- ① それぞれ皆さんの状況を聞かせてもらった。家族の大変さを改めて思った。
- ② 交通事故、リハビリ、環境改善、苦しんでおられる人をどのように支援することができるのかレスパイト入院を含め考えていきたい。
- ③ 北部の拠点を京都府が設置することになると考える。コーディネーター、セラピストを置いて、市・町がどのように連携して支援していくのか、どう取り組むのか課題である。
- ④ 精神科医がおられる病院は、人員の問題等から高次脳機能障害者の外来を新た

に受け入れることは、厳しい状況である。  
しかしながら、レスパイト入院も含め医療機関との連携は不可欠であるので、より連携を深め検討したい。

- ⑤ 高次脳機能障害者のリハビリについて、退院後のリハビリをどうするのか、配置をどうするのか課題である。
- ⑥ リハビリ後の体制、家族の負担、居場所づくりをやっていけるのか。全てできるわけではない。
- ⑦ 北部の拠点づくりは従来よりの願いである。家族も当事者も大変な思いをされていることを十分に聴かせていただいた。頑張ってください。
- ⑧ 私も要介護5の家族を3年間看てきた。妻の大変さも見てきたなどの回答がありました。



## 元気や希望が持てるように

閉会の挨拶において、

今日の懇談会での実情や思いが福知山市第5期障害者福祉計画の中に記述され、一歩でも前に実現するようお願いする。

また、市制施行80周年に当たる本年が高次脳機能障害者等にとって意義ある年であり、元気・希望が持てるよう祭典計画の中に組み入れていただくようお願いする。とし、閉会しました。

## さくらの会 第13回定期総会

さくらの会 第13回定期総会開催を下記のとおり開催しますので、多くの会員の方にご出席いただきますよう、よろしくお願いいたします。

詳しくは、別紙参照

〈日時〉平成29年4月23日(日)

10時～12時 総会

12時～13時 昼食

お弁当を用意します

13時～15時

ゲストの演奏を聴いたり一緒に歌ったりします。

〈場所〉綾部市保健福祉センター  
2階

## 今年も採択されました

—JR西日本あんしん社会財団に平成29年度活動助成の申請をしていましたところ、3月4日に採択の通知がありました。実施時期は年2回(6月、11月)で、グループ訓練後半の経過後における訓練の成果を確認し、フォローアップを図る。



グループ訓練において経験した医療関係スタッフに対しても勉強会を行い、北部地域における高次脳機能障害への支援体制土台作りを行うなどで、市民交流プラザふくちやま等で実施する予定になっています。